

# 令和6年度 宮崎県立日向ひまわり支援学校 学校関係者評価書

4 十分満足できる	3 ほぼ満足できる	2 やや物足りない	1 改善を要する
-----------	-----------	-----------	----------

## 【総評】

評価項目		学校の自己評価・コメント	自己評価	関係者評価	学校関係評価者・コメント
(1) 学校経営	<p>① 教育方針や重点目標がわかりやすく具現化されている。</p> <p>② 学校、家庭、関係機関が連携して効果的な指導をしている。</p>	<p>「ありのままに 自分らしく 伸び伸びと」を合い言葉に、子供たちの実態に応じた教育活動を計画・実施することにより、個別最適な学びを提供し、さらに協働的な学びにより子供たちの学びを深めることができ、教育目標の具現化に繋がる取組ができた。また、コロナ禍以前と同じような行事や会議等が実施可能となり、家庭や関係機関と連携を深め、効果的な指導に繋げることができた。</p>	3	4	<p>評議員会での校内見学や学校行事を参観して、「ありのままに 自分らしく 伸び伸びと」という教育方針が、実感できるものがあった。</p> <p>1年間子供たちをそばで見守ってきている職員の評価が様々な項目で昨年度より伸びているので、信頼性がありすごいことだと思う。</p> <p>保護者へ意見を求めることにより、連携に繋がるので、今後、検討・工夫して欲しい。</p>
(2) 教育課程	<p>① 児童生徒や保護者の教育的ニーズに応じた個別の指導計画を作成し、指導に活用している。</p> <p>② 学習効果を高めるための教材教具の工夫や改善をしている。</p>	<p>学級や学部で、一人一人の子供の実態を把握し、年3回行われる個別の面談を利用して保護者と共に個別の指導計画を作成している。その計画を基に個に応じた教育活動を実践することにより、子供たちのできることが少しずつ増えてきている。</p> <p>I C T機器に子供たちも慣れ、授業におけるI C T機器活用も定着している。また、授業だけでなく学校生活の中でも効果的な活用が見られ、さらに広がってきている。</p>	4	4	<p>校内見学や学校行事の際は、子供たちの生き生きとした動きや笑顔を見ることができ、充実した個別支援が、子供一人一人の成長に繋がっていると思われる。</p> <p>個別指導や教材教具の工夫も素晴らしく、子供たちは、I C T機器を手慣れた様子で操作し、楽しく学習に向き合うことができていて、I C T機器の効果も期待できると感じている。</p>
(3) 教育活動	<p>① 児童生徒は学校に来るのを楽しみにしている。</p> <p>② 児童生徒の実態に即した課題に応じた指導を行っている。</p> <p>③ 児童生徒の将来の生活のための情報を保護者や児童生徒に提供できた。</p> <p>④ 個々の実態に応じた進路指導や進路相談が実施できた。</p>	<p>個別の指導計画や年間指導計画に基づき、手立て等を工夫しながら個に応じた指導を心掛けた結果、「児童生徒の各課題に応じた指導を行っている」という項目が、保護者・職員のアンケートで高くなっている。</p> <p>進路だよりや学級懇談、支援会議等で将来に関する情報提供が適切にでき、昨年度同様、評価が高くなっている。また、キャリア・パスポートの活用により、子供の学びや成長について保護者と共通理解を図ることができ、キャリア教育の充実も繋がっている。</p>	4	4	<p>特別支援教育が必要な子供にとって、楽しく登校し、学習や実習に意欲的に笑顔で取り組むことができていたので、子供たちの充実感や達成感、保護者の安心感や子供が元気で成長していく期待感に繋がっていると感じた。</p> <p>進路便りの発行等により卒業後のイメージが保護者により伝わっているが、まだ、工夫の余地があると感じる。キャリア・パスポートの活用により、キャリア教育の充実も図られている。</p>
(4) 教育環境	<p>① 施設や設備（遊具等）は、安全に管理・維持されている。</p> <p>② 災害や不審者対応等の緊急時の対応が整備されている。</p>	<p>安全点検を毎月1回実施することにより安全管理を行うと共に、修理・改善も予算内で計画的に行うことができています。福祉避難所として開設に向けて日向市と連携を進め始め、学校安全連絡協議会において、様々な機関から助言をいただくこともできた。</p> <p>災害に対する避難訓練や不審者対応訓練等を計画的に行い、危機管理意識を高めることができた。避難訓練の後には、防災学習や日向市防災推進課による防災グッズ等の展示をし、内容等の工夫をすることができた。</p>	3	3	<p>安全管理に関して、計画的に実施されているので問題は無いが、補修・改善の優先を見極めながら継続的な取組が必要である。</p> <p>福祉避難所としての取組は、特別支援学校として意義のあることなので、安心・安全な対策を目指した計画ができるよう期待する。</p> <p>感染症の流行があったが、学校では集団感染がなかったのも、先生方の危機意識の高さを感じた。</p>

(5) 情報提供	<p>① 保護者に学校や学部（学級）の情報を伝えることができている。</p> <p>② 地域・関係機関に学校の取組や必要な情報を伝えることができている。</p>	<p>子供たちの学校での様子は、月に1回発行している学校便り、日々の連絡帳や学級通信を活用して伝えることができた。地域や関係機関へは、ホームページやメディア（新聞、TV）等で情報発信を行ってきた。また、イオン日向店での作品展示やサンドーム日向での運動会を行い、広く学校の取組を地域に伝えることができた。今後も工夫をして情報発信を行い、社会に開かれた学校を目指したい。</p>	4	4	<p>学校便りはカラフルで読みやすく、多くの取組が紹介されていて、素晴らしい。また、学校の近隣の地区の回覧板で回覧され、よい情報源になっている。</p> <p>今年度初めてサンドーム日向で運動会が行われ、苦労や心配もあったと思われるが、安全で楽しいものとなりよかった。また、TVの取材もあり、多くの人に知ってもらう機会となった。</p>
(6) 研修研究	<p>① 職員研修の内容は適切であり、専門性や資質の向上を図ることができた。</p> <p>② 課題研究の内容は適切で、今後の指導に役立てるための研究を行うことができた。</p>	<p>オンライン等に加え、直接会場での参加による県内外の大会や研修会に参加し、特別支援教育に関する専門性の向上を図ることができた。また、講師を招聘し、対面による研修を実施し、講師とやり取りをしながら研修を深め、有意義な研修会となった。</p> <p>教育課題研究では、子供たちが「わかった」「できた」を実感できる授業づくりをテーマに、班に分かれて研究を進め、子供たちの学ぶ意欲を喚起し、生きる力を育む授業づくりに繋がる年間指導計画の見直しや教材の開発等を行い、研究を深めることができた。</p>	4	4	<p>研修・研究内容を生徒の力が育まれる授業づくり等に活かすことで、児童生徒の理解度アップや学ぶ意欲と楽しさの高揚につながり、最終的に子供一人一人の笑顔と先生方の喜びに繋がっていると感じた。</p> <p>今年度も有意義な研修会が実施できており、職員の資質の向上が図られている。</p>
(7) 地域関係機関との連携	<p>① 学校間交流や居住地交流を実施して、障がいに対する理解・啓発を推進することができた。</p> <p>② 地域の小・中学校等を対象に特別支援教育に関する相談・情報提供を行うことができた。</p> <p>③ 福祉や医療関係機関等との連携を図ることができた。</p>	<p>学校間交流では、塩見小学校、日向中学校、日向工業高校との交流及び共同学習を計画的に実施し、啓発活動を行うことができた。また、居住地校交流も直接交流や間接交流を行い、回数を重ねることにより、地域に根ざした交流を深めることができた。さらに、相手校で障がい理解に関する事前学習をコーディネーターが行い、交流を深めることができ、共生社会に向けた取組を行うことができた。</p> <p>特別支援教育のセンター校としては、チーフコーディネーターを中心に日向・東白杵地区の学校に教育相談や研修支援等を実施し、センター的役割を務めることができた。</p>	3	4	<p>学校間交流や居住地校交流が今年度も実施され、地域に根ざした交流により、子供たちが楽しく多くのことを学ぶ機会になったことが学校便りからも感じられる。</p> <p>福祉（事業所）との連携では、卒業後の事業所等の支援する職員に、子供たちの個性や力、先生方の関わりや指導法等を知ってもらう取組により、相互理解の一步へと繋がると思われる。また、そのような取組が、保護者の成人後への場所（就労）へと気持ちを向ける機会になると思われるので、今後に期待したい。</p>
(8) 職場環境	<p>① 日常的に教職員間のコミュニケーションに努めることができた。</p> <p>② 学校・学部・校務部等の運営において共通理解と情報の共有ができた。</p> <p>③ 働き方改革をはじめ、充実した業務を遂行することができた。</p>	<p>職員が一堂に集まる機会が増え、職員間で日常的にコミュニケーションを十分に取ることができていた。</p> <p>職員会議を始め全ての会議を対面で実施することができ、会議の中で協議・検討を行い、共通理解を図ることができた。</p> <p>適材適所の職員配置により、忙しい中でも充実した業務を行うことができた。職員の「やりがい」につながった。特に本年度は職員が不足していたが、学部内はもちろん学部を超えての協力もあり、組織としての力を感ずることができた。</p> <p>行事や会議の精選等、学校経営ビジョンに基づいた組織としての対応や改善を模索している。</p>	3	3	<p>職員が一堂に集まる機会が昨年に比べ増えたことで、更に職場環境の活性化が図られていると思う。</p> <p>教員不足が言われる中、評価がよく、環境を整え組織力で乗り越えられたことは、まさに、教職員との対話を通じた意識改革等にある取組の成果であると感じる。今後も継続して、労働環境の改善に努めていって欲しい。</p>